

Mr. Mike Pley

President and CEO,
COM DEV, Toronto Canada



このインタビューで、COM DEV社の社長兼CEOであるMr. Mike PleyはSJRとその読者に対して、マイクロ波からミリ波に至る広帯域周波数領域での衛星通信応用技術に関する国際ビジネス戦略を熱心に語ってくれました。

Space Japan Review (SJR): ご多忙の中、私達SJRのインタビューにご対応頂き有難うございます。ご承知のとおり、SJRはAIAA(アメリカ航空宇宙学会)のCMSTC(通信衛星システム技術専門委員会)のもとに結成されました1つの小委員会として組織されたAIAA JFSC(AIAA Japan Forum Satellite Communications)が発行する技術的な刊行物であります。初期には、SJRはハードコピーとして発行されましたが、現在、インターネット上に電子メディアとして配布されています。このセグメントでは、衛星通信、衛星通信事業者、世界と地域の通信衛星開発会社の最高経営責任者の経営戦略と将来ビジョンについてAIAAメンバーとSJR読者のためにその戦略を語って頂きます。

COM DEV社は35年前に創設された由緒ある会社であります。本日は貴社の衛星通信システムに対する世界戦略についてお話いただきますことをお願いします。

最初にCEOご自身の生い立ちとCOM DEV社の概要などをお話いただきたくお願いします。

Mike Pley: 私はオンタリオ州のMcMaster大学のビジネス学部と工学部の学位を同時に取得し卒業しました。それ以来25年間にわたり宇宙関連事業に携わってきました。COM DEV社においては、初期は技術者としてスタートし、その後営業部門、プログラムマネージメントを経て2010年末にはCEOとなりました。また現在はMcMaster大学の工学部長へのアドバイザーボードのメンバーでもあります。またカナダ・オンタリオ州政府の製造協議会にも積極的に参加し、活動しております。

我が社は、今まで30年以上、衛星搭載機器開発の世界におけるリーディングカンパニーでありました。我々の顧客は商業用、民間、軍用の衛星市場を含んだ顧客層に広がっております。今まで既に850機以上の衛星に搭載機器を提供していることを誇りに思っております。また今や、我々自身が所有している小型衛星から提供される宇宙ベースのデータサービスを行っております。

SJR: COM DEV社は35年前、衛星通信用マイクロ波搭載機器、特にマイクロ波スタテックデバイス、即ちフィルター、マルチプレクサ、スイッチ等の開発製造会社として創設されました。今や衛星

搭載機器を通じて、地球上の多くの人々に受け入れられ易いユニークな宇宙技術の開発に貢献しているように拝見しております。そこで、この分野での宇宙開発政策と戦略についてのご意見をお話し下さい。

Mike Pley: 私達の行っているビジネスモデルとしては、顧客としては、衛星の主契約者かまたは宇宙開発機関でありその数が少ないという特徴があります。従って年間を通じて顧客の中のあらゆる階層の人と親密な関係を構築するように努めています。我々は注意深く顧客の要求することを理解し、我々の開発計画をそれに沿うように、また最高の性能と品質を確保するように練り上げます。

SJR: 貴社のビジネスフィールドの拡大をどのように図っていますか？ 市場開発能力とビジネス遂行を進める戦略をどのようにして会社に取り入れてきましたか？

Mike Pley: 歴史的に見て、COM DEVは主に商用衛星通信市場に照準を合わせてきました。ここ数年は民間用と軍事用の宇宙市場を並行的に推進して来ました。その結果バランスのとれた対応が出来るようになりました。と同時にプロダクトポートフォリオも拡大することが出来ました。基本的戦略はあらゆる技術分野において自社の戦力を顧客の将来ニーズに如何に合わせられるかを思考し、それを実現することです。我々は今までの得意分野のマイクロ波フィルターをはるかに越えて、将来のニーズに合わせた光・エレクトロニクス技術を取り入れた技術分野まで発展させています。

SJR: 貴社が現在供給しているミリ波や光応用デバイスを含んだ高性能な衛星搭載機器の主要性能をご紹介下さい。更にそれらの機能の世界マーケットへの拡販戦略を合わせご紹介頂きたい。

Mike Pley: 私達は、先ず顧客とのパートナーシップを推進します、プロジェクト毎のテクニカルソリューションを達成するために政府の科学プログラムに参与している主任研究者とのパートナーシップを撰るように努力しています。それと同時にリスクを最小にするためのフライトヘリテージを設計に取り込むように心掛けます。私達は研究の初期段階や基本設計段階よりそのプロジェクトに参加します。それは関連する衛星機器の製作契約を最終的に受注出来るように希望を持って、開発の初期より参加してます。一例として、我々の顧客であるカナダ宇宙庁と共にNASA's James Webb Space Telescope (JWST)に対応したことです。我々の宇宙搭載機器はデジタル電子機器よりミリ波機器から光応用機器にまで及んでいます。



Fig. 2: Com Dev Facility at Cambridge

SJR: 今や貴社では、衛星を用いた船舶航行追跡システムであるAIS-Sデータ配布サービスを促進するためにAIS衛星を軌道に打ち上げております、貴社のこの分野に於ける野心的な計画について説明して下さい。

Mike Pley: 我々は信頼性の高い、高性能な船舶航行追跡システムの必要性ニーズが存在すると確信していました。そのコンセプトを実証するために技術実証小型衛星(EVO)を開発し打ち上げました。また今やこのサービスの提供のために5機の小型衛星の打ち上げ計画を持っています。2011年末までにあと1機軌道に乗せます。この計画は、我々の特許であるsignal decollision technologyを用いて全世界的ベースで優れたサービスを提供する事にあります。“every ship, every time”“全ての船で、何時でも”を約

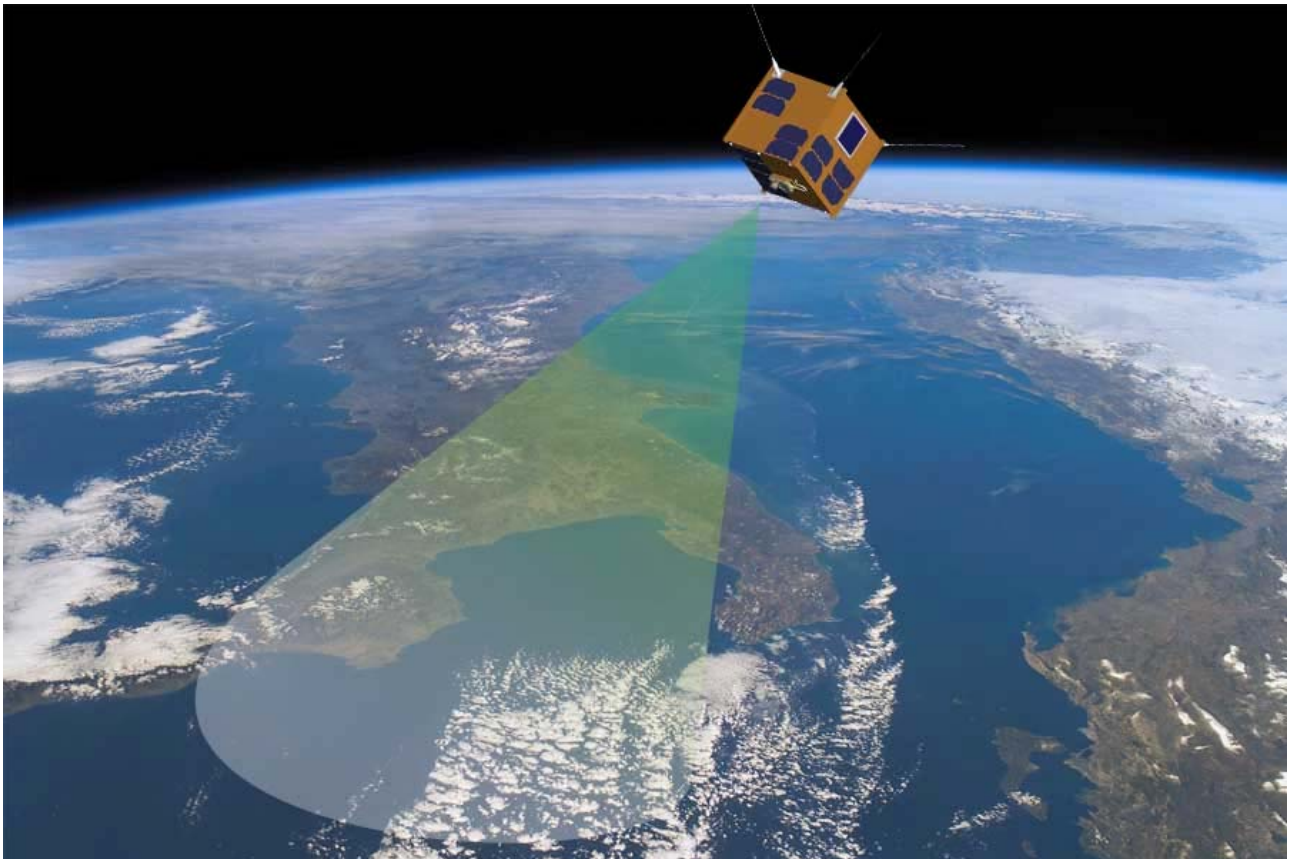


Fig. 3: View of AIS-S Satellite in Orbit

束します。このユニークなサービスは非常にコスト効果の高い方法で海事航行追跡システムを官公庁に提供します。今4つの主たる分野、即ち捜索と救助、環境保全、セキュリティと監視、商用船舶航行の4市場に提供しています。

SJR: 新しい衛星関連市場開発へのエネルギーはどこから湧いてきますか、貴社はどの市場に的を絞っていますか、そのための資源、教育されたマンパワーをどのように集められますか？

Mike Pley: 当社が1980年オンタリオ州ケンブリッジに工場を開発することを決めた理由は近くに優秀なカレッジと大学があることです、ケンブリッジの100Km圏内に9つあります。わが社は技術志向の会社であり、我々は最高の才能を引き寄せることが会社の成長に必要な事であると認識しています。これこそが最高の戦略であると思います。思い起こしてください。1970年代後半、商用通信衛星はまだ幼年期でしたが若い技術者にとっては大変興奮する時代でした。その時に若い技術者がCOM DEVに入社し新しい成長分野のビジネスで活躍を始めたのです。

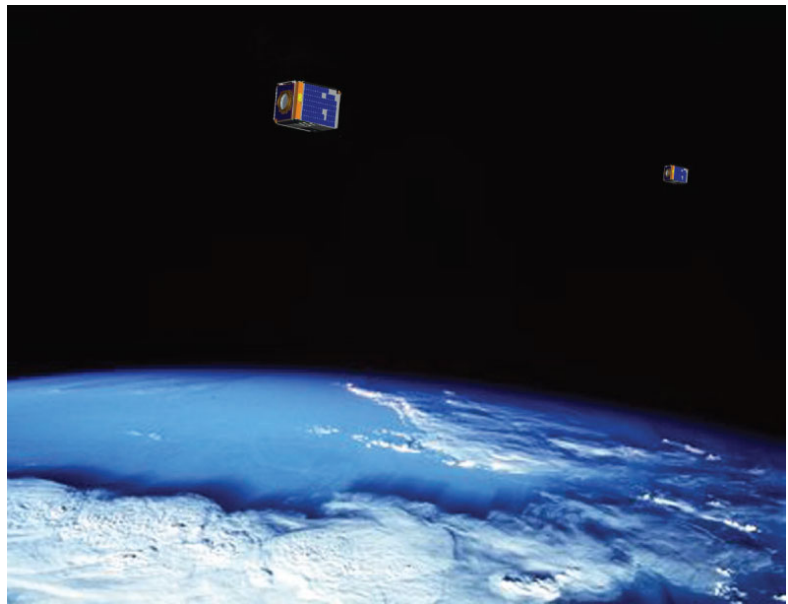


Fig. 3 (continued): View of AIS-S Satellite in Orbit

SJR: 世界的視野で見て、次世代のビジネス開発はどのような分野でしょうか？日本を含む次世代ビジネス展開の戦略は如何でしょうか？

Mike Pley: COM DEV社の中心的ビジネスに加えて、我社の将来の世界市場は新興市場に魅せられていきます。例えば顧客を通してのパートナーシップで、ブラジル、ロシア、インドと中国などの新興市場に参入することです。私達は日本の主契約者と良好な関係にあり、我々は輸出市場へ展開していきます。

SJR: 貴社の発祥の地、トロント、ケンブリッジ工場を紹介して下さい。我々のSJRの読者は通信衛星搭載機器を開発製造する世界的企業に興味を持っています。

Mike Pley: ケンブリッジにある我が社の中心工場の敷地面積は26,000平方メートルあります。このケンブリッジ工場は今日まで安定的に成長して来ました。我が社は“engineer-to-order”の会社ですが、周囲の環境に恵まれています。その理念は我々が確実にカスタムデザインを高い効率の費用対効果で実現する理念を持っていることです。独立企業として、付加価値を高める企業であり、衛星本体の主契約者としての能力を持って、顧客の要請に答えられることは事業推進のために重要なことであると思います。

SJR: 貴社は日本の高速インターネット衛星WINDSの衛星搭載機器の開発にも携わっており、また今では日本のEarthcare Projectの開発にも深く携わっています。日本の宇宙開発に携わった感想をどうぞ、日本市場対応の基本的戦略は如何でしょうか。

Mike Pley: WINDSは世界の多くの野心的なプログラムの一つに挙げられます。日本政府は国民のために長期的視野に立って利益になることに投資しています。我々は、津波によって地上通信設備が破壊された被害地に対して衛星通信が直接通信に役立ったと聞いて光栄に思っています。私達もこの期間中exactEarth 衛星よりのAIS 航行データを無償で提供しまして日本政府より感謝されました。私達の日本との協調戦略は、私達がカナダのユーザのために開発した独特の技術を用いた製品を日本に提供出



Fig. 4: Sky view of Cambridge Facility in Toronto Canada

来る機会を見つけ出す事であり
ます。

SJR: 日本では宇宙基本
法、宇宙基本計画がそれぞ
れ2008年、2009年に制定さ
れまして宇宙開発分野での
新しい活動範囲が開け、更
に世界に対してより解放され
ようとしています。この機会
を捉えるためのCOM DEVの
戦略についてお話し下さい。

Mike Pley: 宇宙関連ビジネスは
益々グローバル産業化するの
は明白であります。宇宙は他
の技術と補完し合うグロー
バル・インフラストラクチャ
の一部であると考えられま
す。我々の戦略は日本の宇宙
活動に更に付加価値を付け
ることが出来る分野で協力
することが重要であると思
います。Earthcareプロジェ
クトは正にそのようなケース
であり、COM DEVはNASAの
Cloudsatプログラムでの経
験を生かして協力している
良い例であると思いま
す。



Fig. 5: Interview with CEO Mike Pley

SJR: 現在、世界の経済市場は安定的に成長しています、また株式市場は概して低下傾向で芳しくありません。米国におけるサブプライムローン問題が未だ尾を引いているので、それにEU問題も生じている。更に東日本大震災が発生しました。このような環境の中、貴社では投資関連プログラムに積極的に活動しています。この分野での攻守の状況は如何でしょうか。

Mike Pley: 今まで、このような環境下でも我々は事業の成長と収益の確保に努めてきました。従って全てのプログラムで最高の収益を期待する必要はありません。最近我々は投資市場に向けて、我々は適切な利潤を上げ得る仕事を受け入れていると表明しました。また基本戦略として高い株価を達成することに自信があることを表明しました。

SJR: AIAA Japan Forumは衛星インターネット、モバイル通信、衛星通信事業、光通信などの衛星通信事業と衛星通信向け最新技術の開発事業を同等に扱うように心懸けています。日本において、これからの宇宙開発にはどのような技術開発が必要だとお考えですか。

Mike Pley: 衛星関連プロジェクトのR&Dとしては、地上装置と比較にてコスト効率の高い技術と製品の開発が優先されます。最近注目されることは大型の単独衛星システムから小型衛星群で作る衛星ネットワークに移行していることに興味があります。我々は小型衛星とマイクロサテライトが独特なサービスを作り出すと考えています、例えば小型衛星群が衛星AIS (Space-AIS) データを政府と民間に提供するようになると信じています。

また今日、世界の全ての政府が財政的圧力を受けています、そこで重要な宇宙科学プロジェクト、地球観測、通信衛星ミッション等には、一国の政府資金によるより、国際間のパートナーシップが生み出す資金によることがより重要であり効率的であると考えています。



Fig. 6: Visitors from Japan



Fig. 7: Key Person in marketing activity
(Mr. Sid Rao)

SJR: 最後に、AIAA JFSCはAIAA ICSSC Conferenceを広い範囲で支援しています。またAIAA ICSSC 2011が2011年11月奈良にて開催されます。貴社のご支援を期待しています。

Mike Pley: 我々は長年AIAAの活動には協力しております、従ってこの画期的な計画には積極的に参加します。

SJR: SJRは引き続き衛星広帯域通信システムの開発にご協力頂けることを期待しています。最後になりましたが本日はこのインタビューのために長時間ご協力頂き有難う御座います。引き続きのご支援お願いします。■

(Planning & Editing: Susumu Kitazume, Special Editorial Advisor)